

令和6年の県内の高圧ガス災害事故発生状況(速報)

災害事故件数:5件(うち千葉市管内0件)(令和6年2月末現在)

日付 発生場所 区分(規則)	事故の現象 人的被害状 況	設備名 (ガス種)	事故原因	事故概要	規模
1 1/7 市原市 製造事業所 (コンビ則)	噴出・漏えい なし	配管 (炭化水素)	調査中	運転中のパトロール時に元弁下流配管の保温隙間部から漏洩を確認したため、直ちに元弁を閉止した。 定期整備の気密試験後に系内の窒素雰囲気を保つため、圧力監視用として当該元弁を微開にし、下流にマンメーターを設置した。監視終了後に元弁を閉にせず微開のまま運転し、開孔箇所より漏洩に至った。	C2
2 1/16 市原市 製造事業所 (コンビ則)	噴出・漏えい なし	配管 (水素)	腐食管理 不良	運転停止中のパトロールにて出口配管より微量の油(ハイドロカーボンに水素が溶解した液)の滲み漏れを覚知した。直ちに当該機器ブロック間で脱圧・脱液を実施した。その後、油しみ部分の保温を解体したところ、水平部に部分的な外面腐食を確認した。	C2
3 1/20 市原市 製造事業所 (コンビ則)	噴出・漏えい なし	ポンプ (六フッ化プロピ レン)	調査中	ポンプから反応器へのフィードが乱れたため、運転員が見回りにて実機を確認したところ、ブリーザー弁に霜が発生しているを発見し、直ちにポンプを停止した。 ポンプのダイヤフラムが破損し、その部分から微量に漏洩した六フッ化プロピレンがブリーザー弁を冷やし、霜を発生させたと推測される。	C2
4 1/29 市原市 製造事業所 (コンビ則)	噴出・漏えい なし	配管 (液化石油ガス)	調査中	巡回点検中にLPGの臭気及び異音が生じているのを発見した。直ちにガス検知器で漏洩箇所を特定し、縁切り・脱圧し、漏洩は停止した。 当該配管は滞留部となっており、水平部の下部にスケールや水分が堆積し、その下で腐食が進んだものと推定する。	C2
5 1/29 千葉市 製造事業所 (コンビ則)	その他(外部 衝撃による 破損) なし	配管、継手、弁 (プロパン)	誤操作、 誤判断	プロパンの積み込みが終わり、ローリーの運転士が出荷作業が完了したと思込みローリーを出構させた。その際に異音に気づき車両を停止した。現場を確認するとローディングアームが接続された状態で車両を移動させたことで出荷関係の配管等が損傷した。発災後に発泡液により気密試験を実施したところ、漏洩は確認されなかった。 ローリー運転士がローディングアームの切り離し作業を実施せずにローリーを移動させたことが原因である。	C2

【事故規模】全5件中・・・(A1級)0件、(A2級)0件、(B1級)0件、(B2級)0件、(C1級)0件、(C2級)5件

※1 B1級事故は、B級事故からB2級事故を除いたもの。B2級事故は、同一事業所において、A級事故、B級事故又はC1級事故が発生した日から1年を経過しない間に発生したC1級事故(高圧ガスに係る事故に限る。)

※2 C1級事故は、C級事故のうち人的被害がある事故、爆発、火災、破裂・破損が発生した事故、毒ガスが漏えいした事故、反応暴走に起因する事故、多量漏えいが発生した事故。C2級事故は、C級事故からC1級事故を除いたもの